

中学校第1学年における少人数学級(20人学級)の教育効果

— 教員・生徒・保護者を対象とした情意面の調査をもとに —

清水 利浩*・馬場 久志**

キーワード：少人数学級、教員、生徒、保護者、教育効果

平成18年度文部科学省より委託された「教職員配置に関する調査研究委託事業」において、少人数学級の担任の立場で、教員、生徒、保護者を対象にアンケート調査を実施した。少人数学級となることで「情意面」でどのような影響を与えるのかを調べ、その教育効果について考察した。その結果、少人数学級に対して情意面についての教育効果は期待できる一方で、従来の規模の学級にはない新たな特徴や課題が生じることが明らかとなった。

1. はじめに

本学教育学部附属中学校では、平成18年に文部科学省からの「教職員配置に関する調査研究」の委託を受け、「少人数学級の効果と教員ならびに生徒の情意と行動に関する研究」が行われた。

この調査研究は中学校第1学年を対象とし、通常40人学級4クラスであったクラス編制を、学年途中から異なる規模の学級編制、すなわち40人学級を2クラス、30人学級を2クラス、20人学級を1クラス、計5クラスの編制として行ったものである。

第一筆者は、このうち20人学級の学級担任を任され、生徒と関わってきた。そこで、学年途中に40人学級から20人学級に変わること、教員と生徒、保護者が情意面においてどのような変化がみられるのかアンケート調査を実施することにより、少人数学級がどのような教育効果をもたらすのかについて考察することとした。

なお、この調査研究は、学部教員と附属中学校教員からなる研究支援グループが連携し、調査生徒の学力の変容だけでなく、授業中の生徒・教員を対象とした録音・録画によるマイクロ分析なども行ない、学級規模の相違によって生徒・教員の行動の変容に違いが生じるかなどにも視点をあてて総合的に研究を進めたものである。

2. 調査の対象

(1) 対象校

埼玉大学教育学部附属中学校 第1学年

(2) 対象期日

平成18年9月25日～平成19年3月下旬

(3) 対象者

生徒：第1学年E組 20人学級の生徒22名

(9/25現在)

* 埼玉大学教育学部附属中学校

** 埼玉大学教育学部教育心理カウンセリング講座

表1 各学級の生徒数（9月25日現在）

	前期（～9/24）			後期（9/25～）		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
A組	21	22	43	21	22	43
B組	21	22	43	21	21	42
C組	21	21	43	16	16	32
D組	21	21	43	16	16	32
E組				11	11	22

* 9月25日以降の編入

A組（男子1名）、B組（女子1名）

D組（女子1名）、E組（男子1名）

教員：第1学年の授業に関わった教員

保護者：第1学年E組生徒の保護者

この調査は、文科省の委託の決定が前年度の3月末であったため、後期が始まった学年途中の9月25日から、表1に示した新たな学級編制にして実施された。

3. 調査の内容

今回の調査の目的は、以下の3点である。

- (1) 20人学級の授業を担当した教員を対象にアンケート調査を行い、他の30人学級、40人学級と比較した学習面・生活面での授業を行う際の違いや前期と比べた生徒の変容を明らかにする。
- (2) 20人学級の生徒を対象にアンケート調査を行い、前期の学級との違いや20人学級での生徒の情意面での変容を明らかにする。
- (3) 20人学級の生徒の保護者を対象にアンケート調査を行い、少人数の学級編制を行なったことの「気持ち」を具体的に記入してもらい、20人学級に対する効果を明らかにする。

4. 調査の結果の概要

- (1) 20人学級の授業を担当する教員を対象とする調査

各教員は「学級規模」の違いを実感しながら実際に半年間、教育・指導を行なってきた。教科担任や学級担任が得た直感的な「感想」も重要なデータである。ここでは、生徒の生活面と学習面での変化について、本校の取り組みが終了した時点での感想を調査し、まとめて示した。調査の対象とした教員は、20人学級の授業を担当した4名の教員（担当教科：社会科、数学科、美術科、理科）である。

① 生活面の効果

ア) 20人の学級になったことで、学級があまりやすくなったと意識する生徒が増えたものの、普段の生活で気の合う仲間がいないことに悩む生徒もいた。これは特に女子生徒に多く、自分が入ることができる仲間グループが、学級が少人数になるほど減少することが影響していると考えられる。

イ) 少人数の学級ほど生徒は、学級を集団としてまとめやすく、リーダーが育ちやすい。その一方で、一部の発言力のある生徒の言動でクラス全体が動いてしまうおそれも包含している。

ウ) 学校行事など学級としての団結を必要とする場面では、音声による表現や行動などエネルギーとしての「盛り上がり」が、40名の学級に比べ、少人数学級ほど少なく感じる。

エ) 少人数学級の場合、影響力のある生徒の雰囲気広がりがやすい。他方、生徒の人数が多くなるに従い、そうした傾向が少なく感じられた。しかし、「良い」雰囲気になるには、生徒の人数が多い場合の方が時間がかかった。

② 学習面の効果

ア) 今後の研究結果の精査が必要であるものの、例えば数学についてみると、中間テスト、期末テスト、復習テスト、実力テストなどの平均点の推移からは、20名学級の生徒の成績にもたらす効果は見られなかった。

イ) 学級の人数が少ないほど、一人の生徒と関わる時間が増え、個に応じたきめ細かな指導が可能になる。例えば社会科では、調査のまとめなどの作業学習では効果的である。その例と

して写真1と写真2に20人学級及び40人学級の授業風景を示した。写真1の少人数ではお互いの作業を見合いながら確実に学習を進めていくことができる空間が確保されるものの、写真2の通常の40人学級では写真からも分かるように混雑した中で全てが行なわれている。このように、単純に人数の多少がもたらす環境の差異があることも事実である。しかし一方で、20人学級では、学習に対する意欲が維持できず、生徒が受身になってしまう傾向も見られた。

ウ) 美術の制作活動において、学級の人数が少ないほど教員が生徒の活動を見る時間量が増え、生徒が失敗する事態への介入が素早くできる。また、空間としての教室の使用方法にも変化をつけることができ、生徒への対応が十分にできた。しかし、成果として「作品」を見たときには、学級の大きさによる差は見られなかった。

エ) 理科の実験を中心にする場面では、40名の学級に比べ、少人数の学級では、一人一人が



写真1 20人学級の授業風景

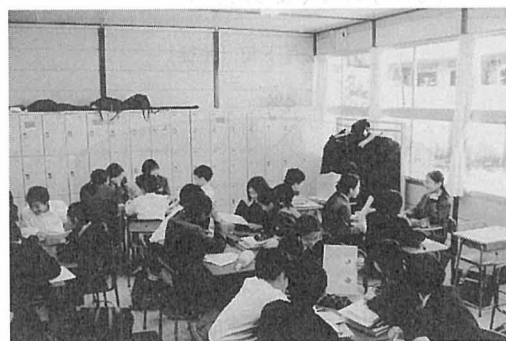


写真2 40人学級の授業風景

個別に実験を実施することになったため、実験への取り組みに消極的な姿が見られた。これは、実験中に友だちの様子から自分の状況の確認や修正が必要になっても、小さな集団では、教員以外の情報を見聞することができず、通常では友達とのやりとりの中で解決できることや、友達の取り組む姿に触発されて自分の行動に自信を持って実行することなどができにくくなったからだと思われた。その後、二人で組になって実践する形に変更したところ、意欲的な姿が多くなり、成績も向上する傾向が見られた。

③ 教員を対象とする調査のまとめ

以上の感想をまとめると、教員は生活面においては、学級を運営していく上で、少人数学級の方が学級をまとめやすいと感じている。これは、生徒の話に耳を傾ける機会が増え、良好な人間関係を築きやすくなったからと考えられる。しかしながら、学級規模が大きいときにはみられなかった、少人数特有の問題もみられるようになった。必ずしも少人数であることが良いといえない、というところもあり、少人数学級にあった指導法を工夫する必要があると感じられた。

生徒の学習面については、学級規模が小さくなることで、教員と生徒間のかかわりが、ある種の動機となって増加し、成績が向上する傾向が見られた。しかしながら、本校の取り組みが終了する時点（平成19年3月下旬）では、ほぼ学級規模による差はみられなかった。

このことから、学級規模の変化は、生徒の学習に何らかの影響をもたらす可能性がある一方で、少人数学級では、友達の発言内容の多様さや課題をクリアする時間の差異などお互いの行動の違いに触れる機会が減り、自らが試行錯誤して何かをやり遂げる「達成感」を実感できる場面が減少している可能性もある。つまり、学級規模の大小にかかわらず、その学級集団が学習に対し意欲的であり、授業がよい雰囲気が進められていることが、一人一人の生徒によりよい「学習環境」をつくることに繋がり、学習面

の成果に影響を与えていると考えられる。また、生徒の特性によって、大勢の中でこそ伸びる特性を持つ生徒もいることが予想される。さらに、授業の中で、教員の生徒個人への関わり方そのものが、学級規模によってどのように異なるものであったかが重要な要素となるであろう。

(2) 20人学級の生徒を対象とする調査

20人学級の生徒に対して、9月下旬のクラス替え当初とクラス替えから5ヵ月経過した2月下旬の計2回、生徒が少人数学級に対してどのような「気持ち」をもっているかについて比較した。

① 生徒の気持ちについての9月下旬

(クラス替え当初の調査)の調査

9月下旬のクラス替え当初の「気持ち」を具体的に調査した。生徒が記述式で回答した内容は、以下の表2の通りである。

表2 具体的な生徒の記述内容
(クラス替え当初)

<肯定的な記述>

- 「このクラスなら頑張っていける」
- 「友だちの名前を覚えやすい」
- 「教室が広く感じる」
- 「静かなクラス」など

<否定的な記述>

- 「友だちができるか不安」
- 「話したことがない人が多く不安」
- 「人が少なすぎて心配」
- 「先生にもたくさん指される」
- 「自分の出番が多くなって嫌だ」など

「人間関係を形成する上での効果」や「係を行う上での効果」を挙げた肯定的な回答が13%であった。一方、「人間関係を形成する上での不安」や「学習面での不安」、「係活動を行う上での不安」といった否定的な回答が78%であった。図1はこれを図示したものである。多くの生徒は、学年途中で少人数学級に変わることによって不安を感じていることが読みとれる。

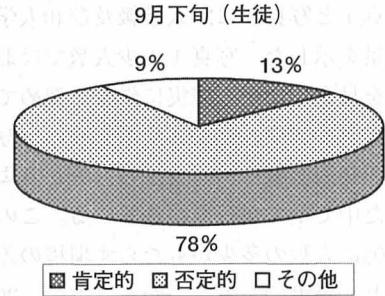


図1 20人学級への生徒の反応 (クラス替え当初)

② 生徒の気持ちについての2月下旬 (クラス替え5ヵ月後)の調査

クラス替えを行い5ヵ月が経過した2月下旬に、20人学級の一員である「気持ち」を調査した。記述式による質問で、生徒からは表3に示したような回答が得られた。「人間関係を形成する上での効果」や「人数の少なさなどの環境面での効果」、「学習面での効果」「係を行う上での効果」といった肯定的な記述は87%であった。

表3 具体的な生徒の記述内容
(クラス替え5ヵ月後)

<肯定的な記述>

- 「いろいろな人と深く話すことができた」
- 「一人ひとりの良いところがわかった」
- 「まとまりがある」
- 「教室が広く使えていい」
- 「落ち着く」
- 「集中して授業を聞くことができる」など

<否定的な記述>

- 「少なすぎてつまらない」
- 「席替えが楽しくない」
- 「手を挙げなくなった」など

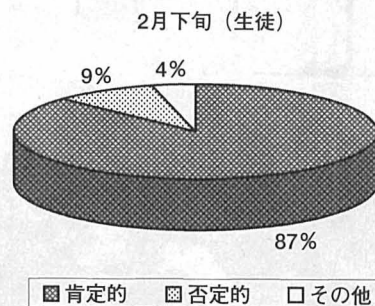


図2 20人学級への生徒の反応 (クラス替え5ヵ月後)

一方、「人数の少なさ」や「人間関係を形成する上での不安」などといった否定的な記述は、13%であった。図2は、これを図示したものである。多くの生徒が、5カ月の時間を経て、学級での所属感、満足感を感じたことが読みとれる。

③ 個々の生徒の変容

アンケート調査より、個々の生徒の「気持ち」の変容をみた。結果は、表4に示した通りである。9月下旬の段階は、40人学級から20人の少人数学級になることへの不安が読み取れた。これが、5カ月後の2月下旬には、学級での所属感や満足感の内容へ変わっていることが読みとれた。

④ 生徒が感じる学習面での効果

20人の少人数学級の生徒に対して、20人学級で効果が挙げたと感じる教科は何かについて調査した。質問した内容は、質問A「少人数学級で1番よかったと思う（効果が挙げたと思える）教科を1つ答えなさい」と、質問B「20

表4 生徒の気持ちの変容

	9月下旬	→	2月下旬
女子A	「初めは、どんなクラスができるか、新しい友だちもできるか心配。」	→	「クラスのまとまりがあり、クラスの一員として、とてもよい。1人1人のよいところが分かった。」
男子B	「まさか自分が少人数学級になることを予想していなかったから驚いた。これから少人数でやっていけるか心配。」	→	「授業中に話す人も少ないので、集中して授業を聴くことができる。」
女子C	「人数が少なすぎるから心配。」	→	「人数が少ない分、40人学級よりいろいろな人と話せる。」
男子D	「少人数学級になるとは思わなかった。初めて教室に入った時は戸惑った。」	→	「今は、逆に40人だと変な感じがする。クラスがまとまりやすい。」
男子E	「自分の出番が多くなってしまい面倒だ。」	→	「今は、クラスの一員として歌を歌ったり、係活動を毎日行ったりすることが当たり前になった。」

人学級で効果が挙げたと思う教科を5つ答えなさい」の2つである。また、その理由について自由記述してもらった。

その結果を表5と表6に示した。前者の質問では、理科が圧倒的に多く、その理由は、実験に係わる機会が増えたことを挙げている。後者の複数の教科を答える質問では、理科の他に、英語や数学が多く、教師とのかかわりの機会が増えたことを理由として挙げている。

このことから、生徒は、20人学級となることで、教科によってはより主体的な学習活動ができたことを実感している。しかし、すべての教科で同様に感じているのではなく、実技教科では少人数であることに対する特別な効果は感じていないようである。

表5 効果が挙げたと思える教科

	質問 A	質問 B
国語	1	14
社会	3	15
数学	3	17
理科	11	20
英語	3	19
音楽	1	6
美術	0	4
保体	0	2
技家	0	3

表6 効果が挙げたと思える理由

教科ごとの選択理由

<理科> 「実験を普段4人で行うところ、2～3人で行うので充実した」
「実験する機会が増えた」
「実験が自分できた」など

<英語> 「会話練習が充実した」
「発音練習も大きな声が出せた」
「先生によくさされ、答えられた」など

<数学> 「たくさん手が挙げられた」
「自分の考えを発言できる機会が増えた」
「授業に集中できた」
「わからないことを先生に聞いた」など

⑤ 次年度への希望

2月下旬に、「少人数学級は、この3月で終わりですが、もう一度このようなクラス編制があるとしたら、どの人数の学級がいいですか。」との質問調査を行った。図3からわかるように、再び20人学級を希望する生徒は53%（12人）と半数を超えた。一方、30人学級を希望する生徒の割合も43%（10人）みられた。生徒が記述式で回答した内容は、表7の通りである。20人学

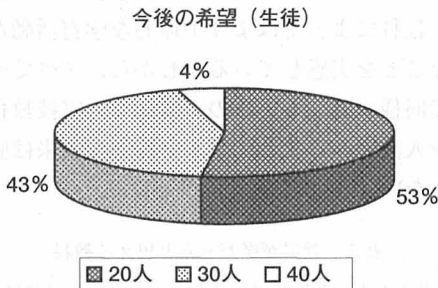


図3 生徒が希望する学級規模

表7 生徒の学級規模についての希望理由

20人学級を希望する生徒…12人

<学習面>

- ・勉強にも集中できる。授業中に発言ができ、他の人の意見もたくさん聞くことができた。
- ・人数が少ないから授業に集中できる。
- ・授業がよくわかる。安心して取り組める。
- ・先生が1人1人に関わってくれる理科では、たくさん実験ができる。
- ・成績が上がった。

<生活面>

- ・大人数より団結感がでる。
- ・1人1人の良いところがとてもよく分かり、クラスのまとまりがあった。
- ・1人1人の個性がよく理解でき、少人数は良いなと思った。
- ・少ない方がお互いの存在を認め合い、仲間を大切にできる心生まれる。

30人学級を希望する生徒…10人

- ・多くもなく少なくもなく感じるから。
- ・40人だと楽しいけれど、私語が多くなる。しかし、20人だと寂しい。
- ・20人よりも賑やかそうだから、勉強・生活の両方よくなると思う。

40人学級を希望する生徒…1人

- ・席替えが楽しい。

級以外を答えた理由として、20人学級では、「人数が少なすぎて寂しい」や「もう少し賑やかに生活したい」という意見がみられた。

⑥ 生徒のまとめ

20人学級という少人数学級になることに、9月下旬の時点で否定的な回答をしていた生徒が、2月下旬の時点では肯定的な回答に変容していることが読みとれる結果となった。また、情意面からみた学習面での効果については、単一の回答を求める質問では、理科が効果があったとした圧倒的に多かった。その理由をみると、実験に係わる機会が増えたことが窺える。これは、複数回答で多かった英語や数学についての理由でも同様で、教員とのかかわりの機会が増えたことを学習面での効果と感じていることが窺える。さらに、次年度への希望の質問に対しては、再び20人学級を希望する生徒が53%（12人）と半数を超えた。一方、30人学級を希望する生徒の割合も43%（10人）みられた。理由をみると「寂しい」や「賑やかになる」という回答があり、20人学級では、学校生活を過ごす上で、クラスの友達の数の少なさを感じているようであった。

(3) 20人学級の生徒をもつ保護者を対象とする調査

保護者に対して、少人数学級がはじまった9月下旬と5ヵ月経過した2月下旬に、以下の3点についてアンケート調査を行った。

① 9月下旬（クラス替え当初）の調査

「9月下旬から少人数の学級編制になるということを知った際、どの人数の学級になることを望みましたか」という質問を、少人数学級の保護者に対して調査した。その結果が図4である。

回答数は、22人中16人であった。20人学級を望むと答えた保護者が9人（56%）で半数を越えた。その理由は、少人数であることからきめ細かな指導を期待するものが多かった。一方、7人（44%）の保護者が、20人学級への不安を感じ、20人学級以外の学級を希望している。理由

9月下旬（保護者）

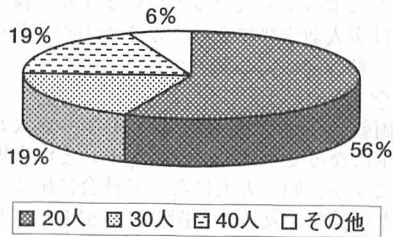


図4 20人学級への保護者の反応（クラス替え当初）

表8 具体的な保護者の記述内容

<20人学級>

- ・「きめ細やかな指導」と「学力向上」への期待。
- ・一人一人に先生の目が届く。
- ・少人数学級において自分の子供がどのように変化し、また、力を発揮していけるか親として非常に関心がある。
- ・このような機会は、これから先もないだろう、よい経験になると思う。
- ・クラスがまとまり、授業も集中できると思う。

<30人学級>

- ・40人は今までと一緒だし、20人はあまりに少なくて戸惑いがありそうだから。
- ・20人学級では、寂しいのと何事にも目立つことが多いので「ちょっと」という感じがした。

<40人学級>

- ・小学校の頃から40人学級でずっとやってきたので、大人数の方が友達同士の関係がつくりやすい。
- ・1学期のクラスがとまとまっていたので、大きく人数が変わることに不安。
- ・たくさんの友達と関わっていき、常にライバル心をもって学校生活を送れる。

は、今までの40人学級で培われた人間関係などが失われてしまうのではないかということであった。表8に具体的な保護者の記述内容を示した。

② 2月下旬（クラス替え5ヵ月後）の調査

2月下旬の時点で、少人数学級の保護者を対象に、少人数学級の長所と短所と思われる事柄について調査した。その結果、長所と思われる事柄は、「参画意識」「責任感」「緊張感」というキーワードから生活面で挙げるものが多かった。一方、短所については「人間関係」に対する不安を挙げる意見が大半を占めた。

表9 具体的な保護者の記述内容（クラス替え5ヵ月後）

<20人学級の長所>

- ・生活面でも学習面でも落ち着いて取り組める。
- ・1/40よりは1/20の方が授業での自分の比重が高いため、参画意識が高い。
- ・生徒が一人一人責任を持って物事に取り組める。
- ・責任を持つ仕事を頼まれることが多くなり、その結果しっかりしてきた。
- ・先生が一人一人としっかり向き合って指導してくれる。
- ・子供も常に見られているという意識の中、緊張感があった。
- ・発言や発表・実技の機会が増えるので、積極的に勉強に取り組めた。
- ・当初はあまり少なく落ち着きがない感じがしたが、一度きっかけをつかめばクラス全体がうまく稼働していく。
- ・先生と生徒の意思疎通が十分である（より一層の信頼関係ができる）。
- ・相談ことや悩み事があったときに、話がしやすいこと。
- ・生徒間でも相手を認めて（良いところ・悪いところも理解した上で）向上することができる。

<20人学級の短所>

- ・人間関係（友達との関係）がうまくいった時はよいが、そうでない場合が心配。
- ・友達関係がうまくいかないと居心地がとても悪いものになる。
- ・個々のグループが成り立ちにくいので、輪の中に入っていけないと孤立する。
- ・友達関係が一度崩れると大変（同性の人数が少ないので）。
- ・人間関係が密なだけに、難しい面がある。
- ・生徒の個性がかたよるおそれがある。
- ・自分と合った友達が見つかるまで時間が必要。
- ・クラスメイトとのトラブルが起きたとき、人数が少ない分気まずいかなあと思います。
- ・気が合う友人ができなければ最悪かもしれない。
- ・いろいろな人との関わりが減る。（友達が限定されてしまう）
- ・20人学級で心地よく生活していたので、40人ではうまくやっっていけるか心配。
- ・少人数の意見しか聞くことができない。
- ・だんだん馴れ合いになっていく。
- ・「ぬるま湯に浸る」というようなことにもなりかねない。
- ・まとまりが良いだけに、起爆力・迫力に欠ける。
- ・子供の話によると、自分の意見を言う人が少ない（理解していても手を挙げない）。

③ 保護者の次年度への希望

2月下旬に、「次年度、もう一度このようなクラス編制があるとしたら、どの人数の学級を望みますか」という質問を20人学級の保護者に行った。これらの結果を図5として示した。引き続き20人学級を望む保護者66%と半数を超えた。その理由として、人間関係を形成するうえでの効果や学習面での効果、係を行う上での効果を挙げた。次いで30人学級を望む保護者27%であった。その理由を表10に示した。表からも分かるように、おもに人間関係を形成する上での効果を挙げており、学級規模を40人学級とした保護者はいなかった。これらの感想をまとめてみると、保護者は20人からなる学級に多少の不安を感じつつも、少人数であることからの生徒と教員間のきめ細かな指導や、生徒同士の人間関係の親密さに期待を寄せていることが窺えた。

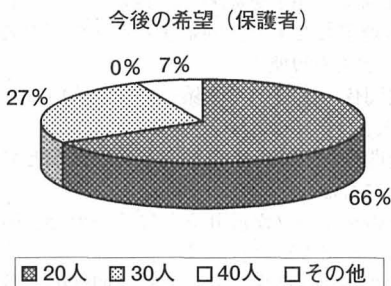


図5 保護者が希望する学級規模

表10 保護者の希望理由

<20人学級>

- ・子どもが20人学級を望んでいることもあり、先生や生徒たちとも親密になれる。
- ・先生と生徒との距離が近く、先生の目が行き届く。
- ・先生が一人一人の生徒ときちんと向き合えて、充実した学校生活を送れそうだから。
- ・落ち着いた状況で勉強ができるので、成績も伸びていくように思われる。
- ・授業中の集中力、質問などの機会が増え、プラスになる。
- ・対応しやすく、行き届いた授業も受けられる。
- ・半年が過ぎて、少人数のE組がとても居心地の良いクラスだった。どちらかという消費的な娘には、1/20の方が存在感をもってもらえるように思った。

- ・いじめにつながる集団が出現しにくいと思う。
- ・子どもによっても異なると思いますが、我が子の場合は少人数学級になってからのほうが積極的になり、精神的に落ち着いて生活していた。

<30人学級>

- ・娘も両親も今回の少人数学級（E組）が大好きで、2年生になってもこのクラスがよいという思いで一杯ですが、娘が大人になって社会に出ることを思うと学校で、友達との関わりを学ぶには20人よりは30人学級がよいと思いました。
- ・20人クラスもとってもよかったが、30人クラスも体験してみたい。40人は多すぎると感じる。
- ・やはり友人の数は多い方がよいし、40人は先生の目が届かないのではと心配。
- ・生活指導や学力指導では、やはり30人前後がよい。グループ活動などは速やかになると思う。

5. まとめ

学級規模を少人数化（20人学級）することは、学習・教育環境の改善として、多くの当事者に望まれているところであり、これによって、一人一人の生徒を大切にされた指導の質が向上することは論を待たない。

また、保護者をはじめとして、生徒自身の学習効果への期待も、それが主観的なものであったとしても、期待がもたらす積極的な効果を考えるならば、少人数化の一つの根拠となりうると考えられる。

本研究を行って、少人数学級（20人学級）を設けさえすればよいというものではない、という問題意識が浮かび上がった。

例えば、学習面については、学級規模が小さくなることで、教師と生徒間のかかわりがある種の動機となって増加し、成績が向上する傾向が見られた。生徒自身も教科によっては20人学級になって、きめ細かな指導を実感した調査結果を得た。しかし、数学などの成績面の推移によると本校の取り組みが終了する時点では、ほぼ学級規模による差はなくなったという調査結果も得られた。

生活面においても、少人数学級（20人学級）は、特に人間関係において、従来の規模である

40人学級ではみられなかった20人学級特有の新たな特徴や課題が生じることがわかった。

今後は、今回得られた結果などにも応じた「少人数」にとってより適切な指導のあり方や、学習環境の工夫が求められだろう。

文 献

馬場久志，萩生田伸子，首藤敏元，志村洋子，真武公司，石川泰成，萩原哲哉，野村真一，大河内範一，大井敏彰，八坂和典，清水利浩，塩崎陽子，安藤義仁：「平成18年度文部科学省

「教員配置に関する調査研究」への取り組み少人数学級の教育効果と教員・生徒の情意・行動に関する研究(1)」、埼玉大学教育学部附属中学校研究紀要第43集，pp. 37-52 (2007)

清水利浩：「少人数で子どもはどう育つか 埼玉大学教育学部附属中学校での取り組み」，日本発達心理学会第18回大会準備委員会企画シンポジウム，日本発達心理学会第18回大会論文集，pp. 108-109 (2007)

(2008年9月30日提出)

(2008年10月17日受理)

Smaller class sizes (twenty students) in first-year middle school education

— A study of teachers, students, and parents on emotional aspects —

Toshihiro SHIMIZU and Hisashi BABA

Keywords : companion relation, three-years old child, observational research, process of development

Through the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology's (MEXT) 2006 teacher-student ratio research project, first author conducted a survey of teachers, students, and parents at my school. Participants' perceptions on the effects of smaller class sizes on the "emotional" aspects of education were gathered, and these responses were then compiled and analyzed. Although the results indicate that smaller class sizes may indeed have a positive impact in this area, it is also apparent that these advantages are accompanied by wholly new challenges and difficulties not faced by traditional classrooms.